ブラジルで１３番目の富豪の転落

〃金融界の寵児〃から容疑者へ。連邦警察に連行されるアンドレ・エステヴェス氏（Foto: Fernando Frazão/Agência Brasil）

現役上院議員の初逮捕劇の陰で「ブラジルで１３番目の金持ち青年実業家」も逮捕されていた。ヴェージャ誌電子版２５日付は、４６歳にしてフォーブス誌の世界の億万長者リストでも６２８位に名を連ね、「９０億レアルの資産」を持つアンドレ・エステヴェス氏（投資銀行ＢＴＧ・Ｐａｃｔｕａｌ経営者）に「終わった億万長者」との見出しを付けた。同誌によれば、この銀行は２千億ドルもの顧客資産を運用する国内第４位の巨大投資銀行だ。金融市場への波紋も大きい▼ｉＧ電子版記事《無資本からブラジル有数の富豪に》によれば、リオ市チジュカ区の中産階級の家に生まれ、リオ連邦大学では数学を学び、投資銀行Ｐａｃｔｕａｌ（以下Ｐ）で研修生として働きはじめた▼労働中毒の勤勉さで若くして経営者に上り詰め、Ｐ行をスイスＵＢＳ銀行に売った。０８年の金融危機で同ＵＢＳ銀行は危機に陥り、その間に彼が創業していたＢＴＧ（Back to the game＝ゲームに復帰）というふざけたような名前の会社がＰ行を買い戻して破竹の勢いに。１４年に英ＦＴ誌は「熱帯地方のゴールドマンサックス（世界最大手の投資銀行）」とまで呼んだ▼ちなみにラヴァ・ジャット作戦では「ブラジル９位の金持ち」も逮捕された。最大手建築会社オデブレヒトのマルセロ・オデブレヒト社長で、その資産は１３１億レアル（ＵＯＬサイト２５日付）だ。とはいえ彼らは容疑段階であり、有罪になるかはまだ分からない▼アンドレの学生時代の夢は「金持ちになるためにガソリンスタンドを買うこと」だったとか。大富豪になったのに、ガソリンならぬ石油公社絡みで転落—とは少し皮肉か。（深）